



たまだれ  
No.52

# 玉垂

Tamadale

## 巻頭特集



明治150年記念企画  
特別寄稿

浜松市博物館学芸員 宮崎 貴浩

～“遠州報国隊”忘れられた先人たち～

特殊神事芸能 小國神社 古式十二段舞楽

春に祈る

～1,300年前から続く伝統の舞楽～

～節分祭の斎行～

# 小國神社の由来

## 創

始は神代と伝えられ、延宝八年（一六八〇）の社記によると、人皇二十九代欽明天皇の御代十年（五五五）二月十八日に本宮山峯（本宮山）に御神霊が顕れた後、勅使が遣わされ、山麓約六キロの現在地に社殿を造営し、正一位の神階を授けられました。

それ以来、年々御神前に幣帛を捧げられ文武天皇大宝元年（七〇一）春十八日に勅使奉幣の際、特に十二段舞楽を奉奏されました。延喜七年（九〇七）延喜式内社に列せられ、中世には徳川家康をはじめとする武将など、朝野の崇敬が極めて篤く近世に至っております。

元龜三年（一五七二）の戦では、家康公は御神霊を別所に遷し、願文と三条小鍛冶宗近作の太刀を奉り戦勝を祈願した後、社殿を全て焼失しました。

天正三年（一五七五）に勝利を得た家康公は、御本殿の造営、拝殿・楼門を再建され、更に社領五九〇石の朱印を奉り、以降世々の徳川將軍家より、社殿の改造・修復料を寄進されました。

明治六年六月十三日に国幣小社に列せられ、明治十五年三月に再度の火災により御本殿以下建造物など消失しましたが、明治十九年に復興され現在に至っております。平成十七年には御鎮座一四五〇年祭が斎行され、『遠江国の一宮さま』として崇敬され広く親しまれております。

また、平成十五年九月十四日には、秋篠宮文仁親王殿下同妃紀子殿下のご親拝を賜り、平成十八年十一月八日には、神宮祭主池田厚子様のご参拝、平成二十九年四月二十九日には、高円宮妃久子殿下のご親拝を賜りました。



小國神社のはじまりから  
現代までの壮大な物語

おくにじんじや  
**小國神社ものがたり**  
ご祭神とともに

公式ウェブサイト特設ページで  
スペシャルムービー公開中

小國神社ものがたり

検索

日本の神様の物語は  
『日本の良き国柄』、『伝統』、『文化』を  
今に伝えています。

この物語は、静岡市在住の絵本・造形作家のたたらなおきさんよりご奉納いただいた全長約七メートルの絵物語をもとに作成をしたアニメーションです。神代より語り継がれてきたお話には、

日本人の「豊かで優しい和の心」の原点が描かれています。神々の営みの中から「正しい道筋をたて生きてゆくことの大切さ」や、「思いやりのこころ」を学びましょう。

# 神々とお祭り

私たちの祖先は、神祭りのなかから生き方を学び信仰の礎としてきました。

また、古くからの伝承や歴史をふまえ、豊かに暮らす知恵を生活のなかに生かし、神々と生活をともにしてきました。

毎年同じ時期にお祭りが繰り返し行なわれ、私たちはその中で信仰や文化をかたちづくってきました。

「お祭り」とは、

日本の伝統にもとづいて、

神々に対する祖先のこころを

今に伝えている大切なかたちです。





“遠州報国隊”－忘れられた先人たち－

宮崎 貴浩 浜松市博物館学芸員

今年、明治という時代になつてから一五〇年の節目の年であり、遠州地域の幕末の歴史を語るうえで欠かすことのできない遠州報国隊にとつても、結成・解散から一五〇年の年です。

遠州報国隊の隊員の中には、小國神社の神主で、留守居役として隊員たちの資金調達に尽力した小國重友をはじめ、出征部として江戸へ行き、御守衛大砲隊に抜擢された小國覚之助など社家の人々も入隊しており、新政府樹立に向けて活発な活動を展開しました。しかし、現在報国隊は、地元の人々ですら知らない存在となつてしまいました。

幕末の日本は、黒船の来航以来、欧米列強の脅威にさらされ、そこから江戸幕府の弱体化が露見し、相対的に朝廷の権威が復活するなど、まさに「内憂外患」の時代でした。各藩が佐幕か討幕かに揺れるなか、慶応四年（明治元年、一八六八）鳥羽・伏見の戦いがはじまり、官軍勝利の情報が遠州に伝わってきました。

そこで、徳川慶喜追討のため江戸へ向かう東征大総督有栖川宮熾仁親王率いる官軍に、従軍し協力しようと結成されたのが遠州報国隊でした。彼らは天竜川の西側・東側で、それぞれ歌会を通じて国学の研究をしていた神職を中心としており、その背景の一つとして、浜松諏訪神社の神職であつた杉浦国頭を祖と



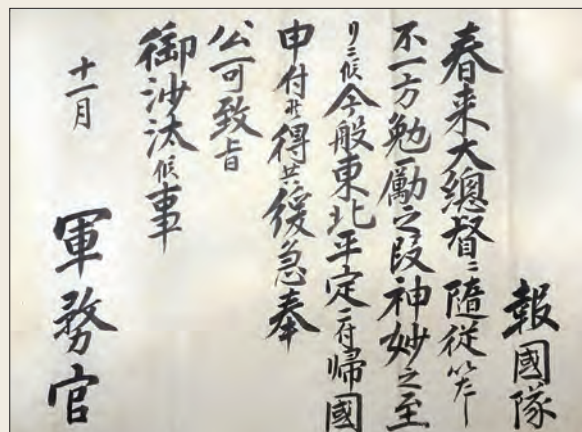
▲有栖川宮熾仁親王肖像 (國學院大學所蔵)

し、その弟子賀茂真淵によつて大きな広がりを見せた国学（遠州国学）の影響が強くありました。官軍の舞坂渡船・天竜川渡河の警衛を許された報国隊ですが、従軍はなかなか許されず、大久保初太郎（春野）らの甲州方面の戦況偵察の功により、駿府で駿州赤心隊とともに従軍の許可を得ました。報国隊出征部

は、官軍とともに江戸へ向かい、主に江戸城の門の守衛と城郭内の見廻りの任務を任せられました。また、報国隊・赤心隊隊員から選抜された者たちで御守衛大砲隊が編成され、報国隊本隊とともに上野での彰義隊との戦いにも参加しています。

この後、鳥羽・伏見の戦い以来の戦死者のため江戸城西ノ丸大広間で慰霊祭を斎行、一部隊員の会津戦争参加、明治天皇の品川御到着の際、奉迎する大総督有栖川宮熾仁親王の警衛を行うなどの事績を残し、明治元年十一月四日に帰国命令を受けました。そして、大総督宮のご帰還に従いつつ地元に戻つた隊員たちは、京都へお帰りになる大総督宮を舞坂でお見送りし、その後、従軍の功績が讃えられ、大総督宮より授けられた御感状と入隊者の名前が記された姓名録を小國神社へ奉納しました。

この二つは、小國神社の社室の一つとして現在も大切に保管されています。



▶御感状 (森町指定文化財 小國神社所蔵)



▶姓名録 (森町指定文化財 小國神社所蔵)

# “国”と“郷土”を愛した遠州の神官たち

そして、帰国命令を受けた隊員たちは、帰国する者と東京に残る者に別れ、解散しました。

大総督有栖川宮熾仁親王の御帰還に従い、地元に戻ってきた旧隊員たちには、徳川宗家の駿府転封による旧幕臣の駿河・遠江・三河への移住から、旧幕臣に敵視されるという不安がありました。そのため、東京に移住して新政府で働こうとする者と、移住せず長年奉仕してきた神社の神官に戻る者に分かれました（移住論と不移論）。不移論を唱えた山本金木や、東京で勤務したのち地元に戻った桑原真清などの

帰郷組、留守役として地元に残った

いた者には、地域の神官として精神的支柱となったり重要な役に就くなど、地域のために貢献する者もいました。対して、地元へ戻りながらも

旧幕臣の影に不安を感じた者たちは、東京に残った大久保春野（移住論の中心人物）や賀茂水穂らに相談を持ちかけました。大久保らが明治維新

の立役者の一人である大村益次郎に事情を説明すると、大村は旧隊員のほとんどが神職であることから、戊辰の役に殉じた忠魂を祀るための招

魂社を創建し、そこで奉仕するよう考案しました。これが明治二年（一八六九）に創建された東京招魂社

（明治十二年靖國神社へ改称）であり、社司として旧報国隊三十一名

（小國覚之助も含む）・旧赤心隊三十一名の合計六十二名が任命されま

した。

ところが、明治四年（一八七一）の社司辞令の更改により、兵部省に

よる遠州・駿州の社司の大量解雇が行われ、生活の目処がつかない旧隊

員は悲惨な状況に陥ってしまいました。これは、明治二年の大村益次郎

暗殺や、明治四年の有栖川宮熾仁親王の兵部卿辞任など、報国隊の理解

者が政府からいなくなってしまうことが大きな原因の一つと考えられます。これにより、報国隊・赤心隊

の名前は、歴史の表舞台から消えてしまったといえます。

## 幕末から明治の日本に

## 大きな影響をあたえた



報国隊整列天龍川岸図(一部拡大)▲  
(浜松市立中央図書館所蔵)



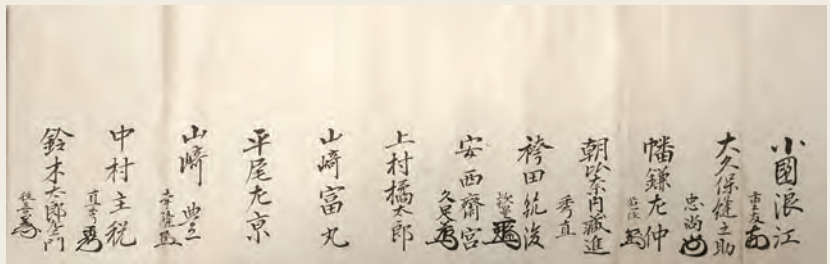
プロフィール

浜松市博物館  
学芸員  
宮崎 貴浩

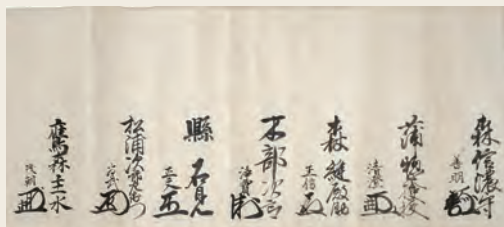
平成16年3月

国士館大学大学院人文科学研究科  
(人文科学専攻・日本史)修士課程修了  
同年4月より旧雄踏町教育委員会勤務  
平成22年4月より浜松市博物館勤務

▶ 姓名録(川東隊)



▶ 姓名録(川西隊)



一三〇〇年前から続く

# 伝統の舞楽



## 特殊神事芸能 小國神社 古式十二舞楽



▲二番 色香

### 古式十二段舞楽 その歴史

十二段舞楽は、大神様への誠心をもって奉納することを本義とし、毎年四月十八日に近い土・日曜日（本年は十四日・十五日）にほぼ一日をかけて奉奏します。

この日付は、欽明天皇十六年（五五五年）春十八日、本宮山にご神霊が出現したという当社の創建にちなんだものです。また、大宝元年（七〇一年）二月十八日には都から勅使（天皇のお使い）が出向き、現在の社地に里宮を開き、十二段の舞を奉納したことが舞楽の始まりと伝承されています。昭和五十七年一月二十三日文化庁より「重要無形民俗文化財」に指定され現在に至ります。

### 東洋文化の精

舞楽は、東洋に発達した古代芸術の代表的なもので、『東洋文化の精』とも言われています。十二段舞楽の原型となる様々な芸能が渡来してきたのは八世紀初頭、西暦七〇〇年頃と考えられています。

その後、都では盛んに舞楽が奏でられ、平安時代初頭には早くもその黄金期を迎え、十二〜十三世紀にそれらが地方に伝播したと学術的には考えられています。

しかしながら、当社への舞楽の伝来は八世紀初頭と早く、都と当社との関係性の深さを伺わせません。そして、当社の舞楽の細部には、中央で失われたとされている所作が部分的に残っていることからその古さがわかります。

同時に、その古の形（しなま）が現在まで伝承されていることに古式十二段舞楽の独自性があります。



▲一番 連舞



▲十一番 納蘇利

### 奉納演目

●平成三十年四月十四日(土)  
午後二時より奉奏

●平成三十年四月十五日(日)  
午前十一時より奉奏

- 一番 連舞 (子ども舞)
- 二番 色香 (子ども舞)
- 三番 蝶の舞 (子ども舞)
- 四番 鳥の舞 (子ども舞)
- 五番 太平楽 (子ども舞)
- 六番 神まつく (子ども舞)
- 七番 安摩 (大人舞)
- 八番 二の舞 (大人舞)
- 九番 陵王 (大人舞)
- 十番 抜頭 (大人舞)
- 十一番 納蘇利 (大人舞)
- 十二番 獅子 (大人舞)

演目の詳しい解説は

小國神社 十二段舞楽

検索

# 大神様へ感謝の真心を伝える

日々の感謝を伝え、ともに喜びを分かち合う

本年の例祭期間は四月十二日(木)末社塩井神社の垢離祭(神職・舞楽人が身を清める塩水を汲むお祭り)の斎行にはじまり、十四日(土)午後二時から古式十二段舞楽を奉奏します。

翌日、十五日(日)十一時から古式十二段舞楽を奉奏し、午後二時からの神幸祭では、神輿渡御が行われ大宝元年(五五五)の勅使参向の時代絵巻を再現した勅使行列が参道を華やかに飾ります。十七日(火)には前日祭を執り行い、十八日(水)の例祭を迎えます。

大神様のもとに地域の人々が集まり、日々の感謝を申し上げ、共に喜びを分かち合い、祝う

## 例祭期間のご案内



# 平成三十年四月十八日

# 例祭の斎行

ことごとご加護はより広く行き渡ります。  
氏子崇敬者の皆様におかれましては、年に一度のこの期間に是非、ご家族でご参拝ください。

## 例祭とは

### 大神様へ捧ぐ日々の感謝

神社にとって最も重要な祭祀で、通常は年に一度執り行われます。その神社やご祭神にとって特別に由緒あるお祭り、俗に例大祭とも称されます。例祭の期日は神社によって様々で、ご祭神に関わりの深い日や、神社の創建の日など、その神社にゆかりの深い日があてられます。当社では、ご祭神「大己貴命」が本宮山に鎮まったと伝わる由緒ある日です。



## 稚児行列・お稚児さん募集

### 小 国大神様と一緒に行列をなしてご加護をいただきますよう

四月十五日(日)午後二時より神幸祭(神輿渡御)にあわせ稚児行列を行ないます。

古くから、稚児は神さまに近い清浄な存在として、多くの神事において重要な役割を果たしてきました。

お子さまの健全な成長に感謝し神さまのご加護をいただき、鮮やかな衣装を身に纏い、一生の記念に残るお稚児さんを体験奉仕されてはいかがでしょう。

### ●募集要項●

- 対象者 小学校三年生までの男女
  - 初穂料(参加費) 5,000円也
  - 締切り 4月1日(日)
  - お申込み問合せ先 TEL (0538) 89-7302
- 『小國神社振興会 お稚児さん係』





師走の大祓式

## 王進書道展の開催

『不易流行』の文字に込められた思い

平成二十九年十二月十三日〜十七日に中国出身で森町と袋井市で書道教室を主宰する書家の王進さんが当社研修室を会場に書道展を開催しました。

王進さんは、中国国立芸術大学院書道部を卒業され、国立台湾芸術大学客員講師などで教鞭をとるかたわら、平成十八年、十九年、二十年と三年連続中国全国書道大会で最優秀賞を受賞されています。開催当日は、多くのギャラリーが見守る中、美しい筆さばきで書のライブパフォーマンスを行ない、会場に集まった王進さんより、当日のパフォーマンスで力強く揮毫した「不易流行」の書をご奉納いただきました。



「不易流行」王進さんによるライブパフォーマンス▲



本宮山山頂へ登拝された皆さま▲

## 師走の大祓式・除夜祭の齋行

日々の穢れを祓い清め、清々しく一年を迎える

平成二十九年十二月三十一日(日)大晦日に師走の大祓式を執り行いました。当日は、雨模様のお天気にも関わらず、約五〇〇名の皆さまが参列されました。

大祓は、私たち日本人の伝統的な考え方に基づくもので、常に清らかな気持ちで日々の生活を送ることができるよう、自らの心身の穢れ、災厄の原因となる諸々の罪や過ちを祓い清めます。

大祓式の後には、引続き除夜祭を執り行い、大神様のご加護のもと一年を無事に過ごせたことに感謝し、新しい気持ちで、新年を迎えることができるようお祈りいたしました。

## 本宮山奥磐戸神社例祭の齋行

大神様が初めて降臨された聖なる山

一月六日(土)に本宮山奥磐戸神社例祭を執り行いました。

社伝では、大神様が本宮山山頂に「欽明天皇十六年乙亥二月十八日」に天降られたと記され、奥磐戸神社は、「一宮ノ荒魂社奥院也」とされ、現在の本社とは元宮と里宮の関係です。

当日は、一二〇名のご参列のもと、盛大に執り行われ、祭典終了後にはお神札を授与し、古式神酒とお下がりを頂きました。

北風が強く吹く、寒さ厳しい日ではありませんでしたが、年の初めに本宮山山頂で大神様のご加護を受けられた皆さまは、一様に清々しい表情をされていました。

本宮山奥磐戸神社へのアクセスは

本宮山奥磐戸神社 アクセス

検索

## 田遊祭・田遊神事の齋行

今も昔も変わることない真摯な「祈りの姿」

小國神社の「田遊神事」は年の始めに豊作を祈願して田作りから刈り入れまでの稲作課程を模擬的に演じる十二段の演目からなる神事芸能です。

所作や唱え言により田の神の靈威を高め、田の穢れを祓い、秋の豊かな稔りを祈ります。

また、素朴な所作と唱え言は古式を今に伝える貴重な神事として、国選択「記録作成等の措置を講ずべき無形の文化財」に登録されています。

古から変わることなく続く神々への真摯な祈りの姿に、ご参拝の皆さまも高い関心を寄せていました。



二番 畦塗り▲





大祭“祈年祭” 豊かな稔りを祈ります▲



▲紀元祭奉祝記念式典“万歳三唱”



▲平成30年“戌年”制作：鈴木格子様



小國神社 氏子青年会 餅つき奉仕の様子▲

### 小國神社氏子青年会奉仕活動のご報告

## 神

社を中心とした地域の発展を願う大神様への真心のご奉仕

小國神社氏子青年会では、年末年始にかけて様々な奉仕活動を行ないました。

年末には、注連縄の奉製と掛け替え作業の奉仕を行い、年明けからは、「小國神社開運だるま」の授与、正月行事の締めくくりに、一月二十一日のどんど焼きの「おはたき餅」授与奉仕を行ないました。

また、二月には建国記念奉祝パレードにおいて子どもたちの引率を行ない我が国の建国の理念を伝える活動を行ないました。

本年も、神社の発展と地域の発展に寄与できるよう活動を展開し、国を愛する美しい心と伝統を尊ぶ精神を伝える活動を行なってまいります。

### 紀元祭の斎行

## 日

本の国柄を正しく知り、その精神を後世に伝える

本年は、初代神武天皇が建国し、ご即位された日より二六七八年を迎えます。

二月十一日(日)に建国の偉業を仰ぎ、我が国の発展をお祈りする紀元祭を執り行いました。祭典後には、五〇〇余名が奉祝記念式典に参加しました。

日本は、国家の起源を神話に求めることができます。その歴史が、神代から現在まで一本の糸で繋がる類い稀なる国家です。

また、日本は神々が運ぶ美しい四季や自然に恵まれ、それらを生かした諸外国に誇れる素晴らしい文化を育んできました。

現代を生きる私たちは日本の国柄を正しく知り、その精神を後世に伝えていかなければなりません。

### 祈年祭の斎行

## 日

本人の原点を見つめる  
「としごいのまつり」

平成三十年二月十八日(日)、祈年祭を執り行いました。祈年祭は、「としごいのまつり」とも呼ばれています。「としごいの魂」、「こいこい祈り」を表わします。

五穀の豊かな稔りと、国家の安泰を祈るお祭りです。お米をはじめとする作物の収穫への感謝と豊作への祈りが、神社にとって最も大切なお祭りとして位置付けられていることから、稲作は、日本文化の原点であると言えます。

また、本年も松尾貞子様より白菜やキャベツを多数ご奉納いただき、ご神前にお供えしての斎行となりました。松尾様のご厚志に深く感謝を申し上げます。

### 日本の神話に親しむ会 「小國神社ものがたり」の読み聞かせ活動

## 奉

仕の心で活躍する  
地域のお母さん

二月二日(金)森町で運営する(福)明和会ワークスつばさ『もみの木分場』で『小國神社ものがたり』の読み聞かせ活動が行われました。

日本の神話に親しむ会は、静岡市在住の絵本造形作家たたらなおき会長を中心に県内のお母さん方が、日本の神話などの読み聞かせ活動を行っています。

当日は、花だいの会(退職女性教員のボランティア団体)が企画運営を行ない、他にも、伝統行事のお話やコーラス、豆撒きなども終始和やかに行われました。

●上演の依頼やお問合せ  
TEL(〇五三八)四二一〇一七四  
「日本の神話に親しむ会」事務局

山住のり子



“小國神社ものがたり”の上演▲

# 伝統行事に織り込まれた いにしえびと 古人のころ

## 節分祭の斎行

大勢のご参拝の皆さままで賑わう二月三日(土)に節分祭を斎行いたしました。

新春に相應しい色鮮やかな装束に身を包んだ一〇〇余名の年男役、年女役の皆さまがご奉仕いたしました。また、本年の特別奉仕者は、俳優寛利夫様、元宝塚歌劇団で女優の天玲美音様にご奉仕をいただき、お二人が舞殿に登場すると大きな歓声と拍手が境内を包みました。

『節分祭』を始めとする伝統行事には、私たち祖先の感性や暮らしの知恵が込められ、日本の四季折々の自然や風土に調和するかたちで各地に伝わっています。



邪鬼を鎮める「鳴弦式」▲

### 「節分」とは

節分は、立春、立夏、立秋、立冬の前日を指し、本来は年四回あります。現在では特に、立春の前日を指す場合が多くなりました。これは、旧暦を使用していた時代には節分が年初めの前日、つまり大晦日とされ、冬から春に移る時節であることから、特別な意味を持つようになりました。

節分の行事は、本来宮中で季節の変わり目に行なわれた年中行事で、これに大陸から伝わった(追儺・鬼遣らい)の神事が加わり、平安時代から行なわれてきました。時代が下ると次第に民間に伝わり節分当日の夕暮れにヒイラギやイワシの頭を家の入り口などに挿しておいたり、豆撒きをするようになりました。

このようにしておく、鬼(流行病や災難をもたらす邪鬼)がヒイラギの葉のトゲに刺さり、イワシの悪臭に驚き逃げていくと考えられていました。これは、季節の変わり目には邪鬼(鬼)が生じると考えられており、それらが家に侵入しないように追い払うためです。

また、豆を撒く際のかげ声は通常「鬼は外、福は内」ですが地域や神社によって様々です。鬼を祭神または神の使いとしている神社などは「鬼は外」ではなく「鬼は内」としているところもあります。





▶福を呼び込む、宝槌打振神事



▶大神様のご加護をいただく、金幣行神事

## 豆撒き神事

くなぜ豆を撒くのでしょらく

豆を撒く意味は、豆には穀物の穀霊が宿り生命の源の象徴と考えられ、鬼に豆をぶつけることで邪気を祓い、一年の無病息災を願う意味合いがあります。

家庭においては、夕方家のドアや窓を開けて家の主人が豆を撒き家族の幸せを祈ります。豆を自分の年齢より一つ多く食べると、身体が丈夫になり、風邪をひかないとの言い伝えもあります。

## 幸せを祈るころ

立春が過ぎると、空には厳しい風が吹き渡っていても、陽射しは春めいてきます。山野の草木は、静かにその芽を育んでいます。このような神々が運ぶ悠久の天地の流れにあわせて、人間もまた春を迎える支度に取り掛かります。

なぜ、日本人は数々の伝統行事を大切に語り伝えてきたのでしょうか。それは、季節の恵みへの感謝と、日々無事に生活できることへの喜びを確認する機会として位置付けてきたからに違いありません。

私たちは、伝統行事を楽しみながら生活の中に取り入れ、祖先のところに触れ、日々の生活に『豊かさ』と『潤い』を与えてゆきたいものです。



▶清々しい笑顔で神事をご奉仕されていました

伝統行事は、四季折々の「自然」や「風土」に調和しながら「日本のこころ」を伝えていきます



# これからの 行事

7月



還幸祭 巫女舞の奉納



## 端午祭



5月5日午前10時より斎行いたします。

菖蒲の節句とも言われ、お子様の健やかな成長を祈るお祭りです。祭典後は邪気を祓う菖蒲とよもぎの葉を授与いたします。



## 初甲子祭

4月2日午前9時より斎行いたします。

寒明けの甲子の日は、大己貴命が「国作り」を始めた吉日です。祭典後は特別にご本殿周囲を歩いてお参りすることができます。



## 平成30年5月27日(日)午前10時より 第6回もりもりマーケット in 小國神社の開催

小國神社第3駐車場(みもろ焼き前)で開催。

森町出身の女性らが企画運営し、「森の仲間たちがつくる森の暮らし」をテーマに手作りの温かさが伝わる雑貨や、アート作品等の展示販売が行なわれます。ご参拝後に是非お立ち寄りください。

## 6月 みなづき 水無月

- 1日 月次祭・甲子祭 (午前 9時)
- 1日 花菖蒲園開園奉告祭 (午前 9時)
- 2日・3日 大骨董蚤の市 (日の出~午後3時)
- 3日 花しょうぶまつり (午前10時30分)
- 6日 本宮山月次祭 (午前10時)
- 18日 月次祭 (午前 9時)
- 21日 御田植祭 (午前 9時)
- 30日 大骨董蚤の市 (日の出~午後3時)
- 30日 夏越の大祓式 (午後 3時)

## 7月 ふみづき 文月

- 1日 大骨董蚤の市 (日の出~午後3時)
- 1日 月次祭 (午前 9時)
- 6日 本宮山月次祭 (午前10時)
- 18日 月次祭 (午前 9時)
- 31日 境内地譲渡記念祭・甲子祭 (午前 9時)
- 31日 愛宕神社例祭 (午前10時)

# 小國神社の 祭典・

4月～

平成30年6月30日(土)午後3時より

## 夏越大祓式

半年に一度、日常生活の中で犯した罪や過ち、心身の穢れを人形に託して川や海に流し、祓い清める神事です。

引続き茅の輪くぐり神事を行い、無病息災を祈ります。どなたでもご参列ができます。

半年の罪穢れを祓い、身も心も清々しい気持ちで新たな季節をお迎えください。

## 4月

うづき  
卯月

- 1日 大骨董蚤の市 (日の出～午後3時)
- 1日 月次祭 (午前 9時)
- 1日 一宮さくら祭 (午前10時)
- 2日 初甲子祭 (午前 9時)
- 3日 神武天皇祭遙拝式 (午前 9時)
- 6日 本宮山月次祭 (午前10時)
- 8日 杉 祭 (午前 9時)
- 8日 全国一宮等合殿社例祭 (午前 9時30分)
- 12日 献茶祭(茶商組合) (午前 9時)
- 12日 垢籬祭 (午前11時)
- 12日 舞 揃 (午後 2時)
- 14日 献詠祭 (午前 9時)
- 14日 氏子入り奉告祭 (午後 2時)
- 14日 十二段舞楽奉奏 (午後 2時)
- 15日 十二段舞楽奉奏 (午前11時)
- 15日 神幸祭 (午後 2時)
- 15日 献茶祭(手揉み保存会) (午前 9時)
- 17日 前日祭 (午前10時)
- 18日 例 祭 (午前10時)
- 29日 昭和祭 (午前 8時)

## 5月

さつき  
皐月

- 1日 月次祭 (午前 9時)
- 5日-6日 大骨董蚤の市 (日の出～午後3時)
- 5日 端午祭 (午前11時)
- 6日 本宮山青葉祭 (午前11時)
- 18日 月次祭 (午前 9時)



### 一宮さくら祭り

4月1日午前10時より開催いたします。

門前駐車場のステージを中心に各所で様々な催しがあります。皆さままでお越し頂き神々が運ぶ春風とご神域の賑わいを感じてください。



### 本宮山青葉祭

5月6日午前11時より斎行いたします。

本宮山の新緑が鮮やかな美しい季節です。どなたでもご参列ができます。是非、ご登拝され大神様のご加護をお受けください。



# 新生児選名・命名について

生を受け、生を伝える  
「人の一生」

様々な節目を迎えるとき、神さまへ「感謝」と「ご奉告」を行うことは、古来より受け継がれた日本の文化です。

当社では、日本の伝統文化に則した新生児にふさわしい名前を選名いたします。

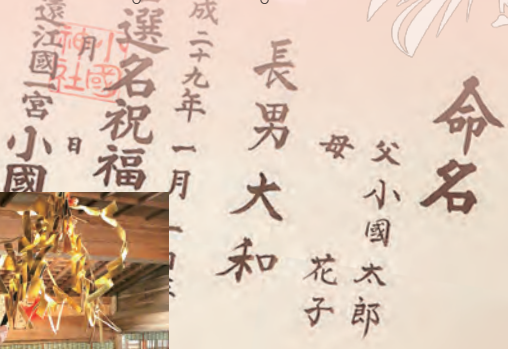
また、ご家族で考えられたお名前候補の中からご相談の上、選名いたします。お名前が決定の後、お子様の無事成長と一生の幸せをご神前でお祈りし、お神札、朱印を押印した命名書

を授与しております。初穂料 一〇、〇〇〇円也

## 命名

平成二十九年十二月一日(金) 平成三十年二月二十八日(水)

鈴木 美琴	神奈川県 難波	春真	掛川市
坂田 侑大	浜松市 矢野	敬士	愛知県 相羽
朝比奈 花	袋井市 寺田ひめか	森	町 北島
稲本 幸輔	磐田市 八木田茉恋	濱松市 花嶋	伶飛
朝比奈 大森	町 小野裕太郎	菊川市 山本	隼大
鈴木 美翔	磐田市 高橋	葉奈	浜松市 田中
渥美 素以	浜松市 白幡	柊季	袋井市 馬淵
			結葵
			磐田市



当社で命名奉告をされた皆様  
お子様の健やかな成長をお祈りします



お申し込み方法など詳しくは、小國神社 選名・命名奉告で検索  
小國神社 選名・命名奉告

# 神社を知れば日本がわかる “まっりの国、日本”



イラスト 小國神社ものがたり 作 たたら なおき

## ●様々な信仰を生む水神さま● 水の神さまってなんだろう？

水は、人間がいきていくのに不可欠なものです。水にまつわる神さまを総称して水神といい様々な信仰があります。

例えば、田の水は川から引きますが、その水神は川の神とされます。また、飲料水などを汲む井戸に

お祭りされるのは井戸神です。水神は蛇や龍、河童などに姿を変え時折人前に姿を現すとの伝承が各地にあります。宮崎駿監督の映画「千と千尋の神隠し」でも、龍の姿をした川の神さまがイキイキと描かれていることは有名です。



最優秀賞 藤田正男氏「新緑を飛ぶ(サンコウチョウ)」  
羽を広げて飛ぶサンコウチョウの貴重な1枚

“小國神社で見つけた日本の美しさ”を表現した“こころ安らぐ”  
素敵な作品を心よりお待ちしております

新たな小國神社の一面を切り取る

本年も好評をいただいております「古代の森小國神社写真コンテスト」を開催いたします。  
“小國神社で見つけた日本の美しさ、を表現した写真を募集しています。作品一枚からでも、  
年齢やお住まいを問わず誰でもご応募いただけるコンテストとなっております。

作品のご応募について

■募集部門

- 第1部門 境内の草花などの自然
- 第2部門 祭事・催物
- 第3部門 野鳥

■応募期間

平成30年6月1日～7月10日必着

■ご応募のきまり

- カラープリント 四切/ワイド四切(フチなし)
- 撮影期間 平成29年7月上旬～平成30年6月下旬
- 未発表作品に限ります
- ※詳細は当社WEBサイト、当社・県内写真各店配布の応募用紙をごらんください。

最優秀賞から  
入選まで  
各賞をご用意

受賞作として20作品を選び、表彰と懸賞のお渡しをしています

- 最優秀賞 1名 賞金5万円 賞状 森町産お茶
- 優秀賞 3名 賞金2万円 賞状 森町産お茶
- 特別賞(宮司賞) 1名 賞金3万円 賞状 神饌茶
- 入選 15名 賞状 副賞(一品)

心ゆくまで作品を堪能できる写真展へお越下さい。  
ご応募いただいた作品の中から、受賞作品・展示作品、約五十点を選び、展示いたします。

写真展の開催予定

小國神社休憩所2階ギャラリー  
平成30年9月頃開催予定

写真展に寄せられた感想をご紹介します

- ゆっくりと時間が流れ、自然にもどれました。(千葉県)
- 小國神社の良さが良くわかるすばらしい写真ばかりでした。(神奈川県)
- どの写真もすばらしく感動しました。(北海道)
- 心がホットする時をありがとうございました。(山梨県)
- 小國神社の四季を感じられました。(三重県)
- 素敵な写真ばかりでした。(焼津市)
- 四季折々の風景、神事、子供たちの表情など楽しませていただきました。(浜松市)



## 勸学祭・氏子入り奉告祭のご案内

新たな季節、新しいスタートを  
神さまと共に

本年の勸学祭は、三月三十一日(土)十一時より執り行います。氏子地域の小中学校へ入学する方でしたらどなたでも参列できます。ご神前にて学業成就、身体健全、交通安全をお祈りします。

氏子入り奉告祭は、氏子地域に、四月十四日(土)午後二時よりおこないます。平成二十九年一月一日から平成二十九年十二月三十一日までに出生されたお子様、嫁入り、婿入りされた方や移住された皆さまならどなたでも参列できます。ご神前にて家内安全、無病息災のお祈りをいたします。

お申込みは各地区の総代を通して行ないます。是非、ご参列下さい。



## 四月十四日斎行 献詠祭和歌募集

### 明治天皇御製

御題 国

よきをとり

あしきをすてて

外国におとらぬくにと

なすもよしかな

意訳

外国の良いところは取り入れ、我が国の悪いところは捨てて、諸外国におとらない立派な国としたいものである。

## 和歌は神代より続く日本の文化です

当社では例祭に先立ち、ご神前に奉納する和歌を募集しています。言葉に托された様々な思いに触れ、豊かな感性を育みましょう。

### 募集要項

- 兼題「明治維新150年」・「森」
- 用紙 短冊  
(歌は楷書にてお書き下さい。裏面に  
ご住所・お名前を明記下さい。)
- 締切り 4月10日(火)
- お申込宛先・問合せ先  
〒437-0026  
静岡県周智郡森町一宮3956-1  
「小國神社祭儀課献詠係」  
TEL (0538) 89-7301

## 編集後記



玉垂五十二号をお届けいたします。  
明治維新一五〇年の今年、NHK大河ドラマ「西郷どん」の放映もあって、「明治の国作り」への関心が高まっています。今の日本を見直そうとの国民の強い思いがあるからだと思えます。

幕末から明治への激動の変革期のなか、「明治の国作り」が大局的に見て成功した理由は、天皇を中心とした国家の形成をいち早く整え、近代国家への道筋を定めることができたことにあります。維新史を辿る上で、薩長土肥の尊王の志士達が活躍し大きな政治的変革を実行した功績は多くの人々が知る所であります。しかしながらそれは、主として政治、外交、軍事、経済の側面にスポットを当てるもので、その根本精神について語られる機会が少なかつたとも言えます。

国作りで最も重要なことは、国民が拠って立つところの精神(精神的支柱)です。これが広く共有されたことが国難を乗り越え、近代国家樹立を果した大きな要因と言えます。当時の日本が国家モデルとした欧米列強の国々には、制度として学ぶべきところが多くありましたが、我が国に相応しい精神的支柱を示すモデルは見つからなかつたのではないのでしょうか。

一般社会でもそうであるように、例えば、自らの会社が危機的状況に陥れば、恐らく誰もがその打開の為に思い起こすことは、会社を今日の形に導いた創業者の姿であり、創業の精神です。つまりそれが精神的支柱に他なりません。

我が国の国家としての出発は、今から二六七八年前、神武天皇が建国し、ご即位されてから始まります。神武天皇は、建国にあたり「八紘(あめのした)を掩(おお)ひて宇(いえ)と為(せ)む」つまり「天下に住むすべてのものが、一つ屋根の下に大家族のように仲良く暮らせるようにする」という崇高な理念を掲げられました。

「明治の国作り」は、この史実に基づき、建国の精神を国民が等しく共有し、心の柱としました。国の再建は、新たな原理に基づく革命ではなく、国家の原点に帰り、そこから再出発する改革、つまり「維新」です。

「内憂外患」の現代においての国作りも同様、歴史と先人の知恵に学び「始めの精神」に思いを致しながら、正しい国へとめざすものでなければなりません。現代を生きる私たちの責任は日本の国柄を正しく知り、その精神を後世に伝え、この国土を護り伝えてゆくことです。

平成三十年三月十七日